

2019年11月5日
大木ヘルスケアホールディングス株式会社

大木ヘルスケアHD『日本薬用人参研究所』の開所式を開催

大木ヘルスケアホールディングス（本社：東京都文京区、代表取締役社長：松井秀正）は、11月1日、滋賀県蒲生郡日野町上野田に設置を進めてきた『日本薬用人参研究所』（所長：医学・薬学博士 寒川慶一）の開所式を行った。



<開所式 テープカット>

大木ヘルスケアHDは、早くから薬用人参の持つ薬効に注目し、特に長年医療用・一般用また食品として幅広く使用されている紅参の研究を、現在まで多くの大学や医療機関と共に行ってきた。そこで、本研究所を、紅参を含む薬用人参の成分・薬効研究の拠点として位置付け、成分の分離・精製をはじめ、各種薬用人参の分析研究並びに薬効研究を、先端分析機器等を用いて精度の高い研究を行っていく。また、それらの分離・精製された成分の活用の可能性についても、今後多くの大学をはじめとする様々な分野の研究機関の先生方と連携して産学共同研究を行う予定である。さらには、本研究所での最初の研究として、京都府立大学大学院生命環境科学研究科食環境安全性学の岡 真優子医学博士を顧問にお招きし、薬用人参成分の新たな薬効について研究を行う。



日本薬用人参研究所 寒川慶一所長の挨拶では、『今までも、JRG（日本紅参研究会）を通じてサポートして参りました。その研究が、現在の世界の紅参研究の基礎となっております。今回、最新の機器を導入し、薬用人参の専門研究所としては、日本で始めて立ち上げることができました。今まで以上に大学との連携を深め、薬用人参研究の発展に寄与できることと考えております。』と、本研究所開所の意義について述べた。

また、来賓の藤澤直広日野町長からは、「日野町は、薬の町であり、長い歴史と文化を持った町であります。こんにちは、人々の健康への期待や要望が高まる中、日本薬用人参研究所が、日野の地で開所されたことを大変心強く思っております。この日本薬用人参研究所が新たな飛躍の峰になって活躍されることは、大変うれしいことです。また、研究の成果の発信が日野町から広がることを大変うれしく思います。日野町にとっても誇りとなる研究所のスタートであると実感しているところです。」と町からの期待の大きさを感じられる挨拶をされた。来賓には、日野町建設計画課 高井晴一郎課長と、株式会社紅参舎 高田敬士CEOも出席された。

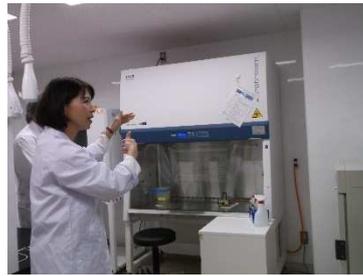
その後の研究室の内覧では、寒川所長や岡研究顧問などから、最新分析機器をはじめ紅参研究に関わる設備についての説明に、藤澤日野町長をはじめ参加者の皆さんが熱心に聞かれ、更なる期待を膨らませておられました。



<来賓挨拶 藤澤直広日野町長>



<分離・精製・分析研究室>



<薬効研究室>



<藤澤町長と研究員>

大木ヘルスケアホールディングス代表取締役 松井秀正社長の閉式挨拶で、『日本の薬用人参研究の中心におられる寒川先生と、ここ日野町のご協力のもと、日本薬用人参研究所を開所することができ、大変うれしく思っております。高齢化の進む社会において、薬用人参の有用性は、今まで以上に重要になってくると考えております。いままでも、大木グループとして紅参研究のサポートをして参りましたが、この研究所が、薬用人参の研究に大きく寄与することを祈念しております。』と、締めくくった。

お土産には、日野町に由来する、“蒲生氏郷まんじゅう”や“丁稚ようかん”などの銘菓が配られた。

大木ヘルスケアHDは、『日本薬用人参研究所』の開所により、日本の薬用人参研究を滋賀県日野町の地よりリードして参ります。